

科学する実践者になる

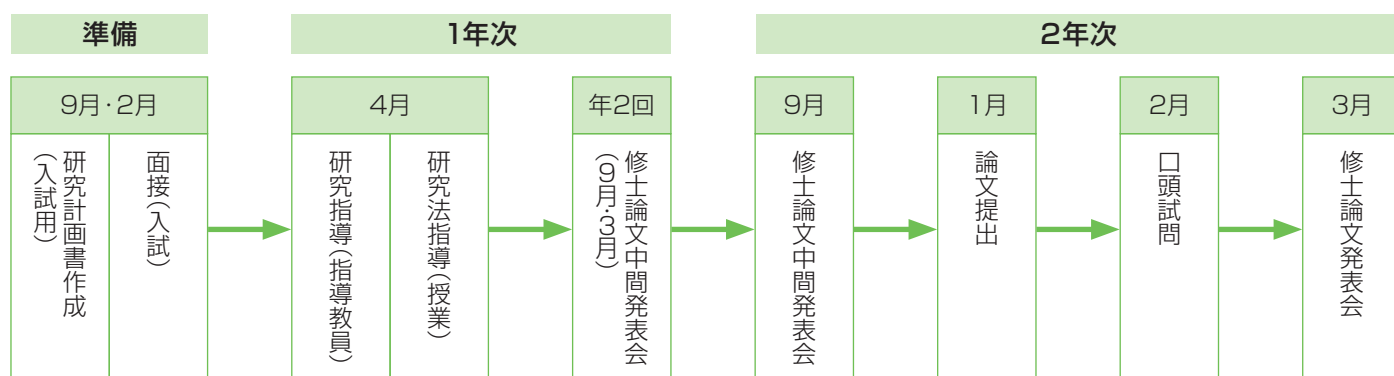
すぐれた実践者は、自らの実践をわかりやすく説明することができます。

そのため、本専攻には、ソーシャルワークの理論だけではなく、いくつかの具体的なアプローチや、自らの感性をブラッシュアップするのに役立つ授業があります。

これらを学ぶことで、現場で体験したことを理論に照らして意味づけたり、ソーシャルワークの価値や理論を自らの感性で問い返し、再構築していくことが可能になります。

また、調査研究法を学び、研究者としての基礎を身につけることもできます。

論文作成の流れ



修了要件

臨床福祉学専攻 博士前期課程の修了には下記選択必修の要件を満たし、合計30単位以上の履修が必要です。

臨床福祉学専攻

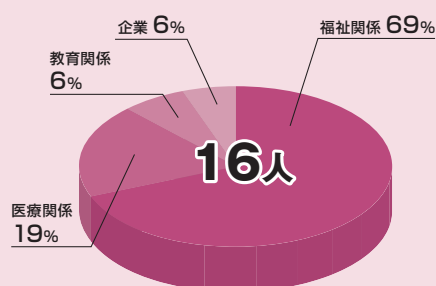
研究基礎科目群から必修5科目10単位、研究演習科目群から必修の臨床福祉学研究演習I・II 8単位の他、6科目12単位以上を選択必修とし、合計30単位以上を修得。(2025年度実績)

また、必要な指導を受けたうえで、修士論文の審査および最終試験に合格することが必要です。

就職に関する情報

大学院修了者 業種別進路決定状況

臨床福祉学専攻[博士前期課程]
(令和2年度～令和6年度全修了生就職先比率)



特色ある科目

ソーシャルワーク特論

この講義は現在、春学期に開講し、これまで研究と実践を双方向から取り組んできた藤原が担当しています。

ソーシャルワークの高度化と専門性の深化をめざした講義内容となっています。理論にとどまらず、実践現場の実態に即したソーシャルワークの課題と展望を多角的に考察します。さらに、政策動向や社会構造の変化を踏まえつつ、地域福祉、こども家庭福祉、障害者福祉、高齢者福祉など多領域にわたる事例を交えて展開しています。

講義は参加型、対話型を基本として、大学院生と教員が共に考え、議論を交わすことを大切にしています。理論と実践が交差するこの講義を通して、現代社会の複雑な課題に対応できる高度なソーシャルワークについて考察を深めます。